

【記者からの質問】

＜環境アセス関連文書（法律相談票等）の開示答申＞

毎日新聞／オスプレイの関係文書の非公開情報について、審査会で開示すべきとの答申が出た。知事の考えと今後の対応を知りたい。

知事／情報は公開が原則、非開示の場合に報告がくるので、この件は私のところにきた。弁護士相談の部分もあり、非開示理由の確認も行い、部分開示にした結果、黒塗り部分が多くなった。

先日、審査会で開示の答申が出た。ただ、事案ごとに個別に判断し、不開示になる場合もあるという内容だった。

個別に判断した結果、全部開示する。

毎日新聞／時期はいつ頃？

知事／速やかに。

＜SSP構想について＞

FM佐賀／SSPのコンベンションを、サロンパスアリーナ以外で開催する可能性は？知事／お互いを知る意味でも、ほかの場所で開催しても良いと思う。サロンパスアリーナは、トレーニング施設が充実しており、サロンのような場所もある素晴らしい場所。今回はお披露目の意図もあり、久光スプリングスの協力を得て開催した。

県内には、ほかのプロスポーツや紹介したい場所もある。今後、検討する。

＜大阪・関西万博の感想について＞

FM佐賀／大阪万博の感想と気づきを教えてほしい。

知事／急に虫が発生したという話があり、思わぬことは起こるものだと感じた。

オランダ国王の来日に際し、吉村知事、大阪市長とともにご招待いただいた。オランダとはCRA（Creative Residency Arita）を10年間続け、交流を深めてきた。具体的には、オランダ出身デザイナーの有田への招聘事業や維新博でのオランダハウスの展示。そのほか、スポーツやコンサートなど。それらをオランダ側から評価いただいた。会場では、家具や陶磁器と並び、佐賀の展示があり喜ばしく感じた。

オーストリア館、アメリカ館、パソナ館を見学し、随所に工夫を感じた。開催前は指摘もあったが、始まるとよいものだと感じた。

＜江藤前農相の発言について＞

佐賀新聞／江藤拓前農相の米に関する失言の場に、知事も同席されていた。発言時の気持ち、辞任に至ったことをどうお感じか。

知事／米をお互いに送り合うのは、九州ではよくあること。枕詞のように使ったと思うが、今の消費の現場と自分の発言を、結び付けられなかったのではないか。

政治家は一言の発言が重い、大臣のメッセージならなおさら。その場では引っかかるものがあつたし、やはり全体構成を考えて、発言には気を付けたほうがよいと思った。あの発言が、人々の感情を逆なでし炎上するのも仕方がないと感じている。

<小泉農相就任について>

佐賀新聞／小泉農相の対応への期待や懸念は？

知事／お米は主食。安い値段でたくさん食べたいニーズに応えるため、随意契約で価格を抑えるという1つの作戦としては評価したい。

一方、県では「さがびより」「夢しずく」などのおいしいお米を開発し、単価の上昇にもつなげた。価値あるお米には、世界標準の値段がついてほしいが、安さへのニーズもある。今後の販売価格は、二極化すると予想している。いずれにしても、農業者の努力が報われる市場になってほしい。

今後、小泉農相のような都市出身の議員が増える。すると、市場への考え方が消費者ベースになりがちになるだろう。しかし、生産現場である農村のことも合わせて考え、国民的な議論できるようにしておかなければいけない。今回の米問題は、日本の主食であり、将来にかかわる米について考える良い機会だと捉えている。

<オスプレイについて（その1）>

佐賀新聞／この後の中谷防衛相との面会で、伝えたいことは？

知事／7月9日の1機目の飛来に備え最終の工事中のため、これまで同様安全に準備を進めてもらいたいこと。8月中に行われる式典には、大臣にも来てもらいたいこと。また、滑走路の環境や自衛隊体育学校の誘致の話ができればと思っている。

<政策提案について（その1）>

NHK／防災庁の誘致の提案があつた。その趣旨と理由を知りたい。

知事／佐賀県は、官民挙げての災害対応ができる。最初の3日間のオペレーションの習熟度が高い。また、災害系のNPOが多く集まっている。世界に医師団を派遣するNPOもある。佐賀と組むと、災害対応でウィン・ウィンの連携ができる。このことから、災害対応の成熟化を一緒に行うことを提案した。

NHK／誘致の候補地は？

知事／特にないが、強いて言えば空港の近く。佐賀空港は、防災拠点として機能する。熊本地震ではベースキャンプのように使われた。また、津波の想定もない。応援県としての精度を高めたい。それが、結果として県内で起こる有事への対応力につながる。

< オスプレイについて（その２） >

NHK／オスプレイの配備は、Ⅰ機目以降の予定がわからない。今日の面談で意見交換をするのか。

知事／事務的に早めに知りたい項目を挙げている。順次開示をしてもらい、信頼関係を継続したい。その後、石破総理と会う際にもいろいろな話をしたい。

< 政策提案について（その２） >

日経新聞／そもそも、自衛隊体育学校の移転や施設拡張問題の話があったのか。

知事／出ていなかったのではないかな。これは職員からの提案。自衛隊体育学校の独立性と、県が注力しているレスリングやフェンシングとの親和性に着眼した。連動できればお互い強くなっていくと思う。

日経新聞／誘致場所は？自衛隊体育学校は、クレ射撃や乗馬など、一般にはなじみのないスポーツも多い。それらも含めて受け入れるのか。

知事／基本的には全体の機能を受け入れる。場所は、どの地域にも可能性がある。

自衛隊体育学校は、トップアスリートを育成する機関でもある。県内には、設備が整った施設がある。これから具体的に検討し、相互理解を深めたい。

日経新聞／大臣との会見時間は？

知事／今日は 15 分。

日経新聞／滑走路問題も含めた政策提言なのか？

知事／はい。

< 石破総理との面会について >

日経新聞／万博関連で石破総理との面会の予定がある。県として一番伝えたいことは？

知事／まずは、鍋島焼 350 年を記念し、鍋島焼を石破総理に献上すること。石破総理とは旧知の仲でいろいろ話をしたいが、あとは情勢次第。

< ※補足 政策提案について（その２） >

県職員／自衛隊体育学校の地方移転を過去に提案したのは、長野県と岡山県。いずれも合宿のみの提案で、完全移転ではない。

日経新聞／政策提言の形での提案例はないのか。

県職員／合宿の要望はあった。政策提案かは確認が取れていない。

日経新聞／移転提案は佐賀が初めて？

県職員／その判断はつかない。

【補足説明：自衛隊体育学校の地方移転について、過去に提案が確認されたのは2県（長野県、富山県）】

<玄海原子力発電所の作業員の内部被ばくについて>

朝日新聞／玄海原発で作業員の内部被ばくの問題があった。知事の見解を聞きたい。

知事／法令に定める報告基準は下回っていた。どこかに触れてしまって被ばくしたのかもしれない。そのような微量な被ばくでも、検出されたことが大切だ。

検出し、対応し、発表したことは評価する。この事例をおろそかにせず、事故、トラブル、リスクを下げる努力をしてほしい。その上で、同じことが起こらないよう期待したい。

<高レベル放射性廃棄物の最終処分場について>

朝日新聞／玄海町の表明から1年。現在の考えを。また、配分金へのお考えは？

知事／かねてから伝えているとおり、配分金は受け取らない。

本県はエネルギー政策において、玄海原発をチェックしながら稼働することで役割を果たしている。最終処分場に関する認識は変わらない。

<与那国町避難受け入れについて>

読売新聞／先週、与那国町の職員が、避難の際に受付をする SAGA アリーナを視察した。所感を聞きたい。

知事／県が所有する SAGA アリーナが、いろんな形で活用できるとわかり、安心材料になったと思う。私が、与那国町で説明したことが腑に落ちたのではないかな。

避難する事態にならないよう努力しつつ、交流をつなげていくことは有意義だと思う。

読売新聞／今後の協議の進め方は？

知事／計画が初期のころ、系数町長が来佐され県庁でお会いした。次は、具体的な計画に基づいたところを視察してもらいたい。

今後、民間の皆さんとの交流が増えていくのではないかな。

読売新聞／民間レベルの交流が、今年度から始まるのか。

知事／行政も民間も同時に進むのではないかな。期日は決めていない。

官民で様々な機会をつくり、交流が始まっていく。佐賀県は先行しているので、ケーススタディーを提示していきたい。

NHK／国民保護に関して、佐賀県が先行している要因を教えてください。

知事／計画は、実効性があるようにしたいと思った。林官房長官から話があったときに、できれば島一つとか、相でできるところを希望した。その結果、与那国町と決まった。

ある島の一部地域となると、他県との兼ね合いもあり、調整事項が多くなる。与那国1,700人なら話が進めやすい。実際、ことが起きてしまうと、計画どおりにはいかない。完璧な計画はつくれなくても、熟度を高めておくことは大事なことです。

交流しながら、課題を意識しながら進めるのは様々な場面で生きてくる。佐賀県が先行し、提示していきたい。

NHK／3月に初期的計画がまとまった。現状で課題があれば教えてほしい。

知事／実際のオペレーションでは、状況によって違いが出る。そのため、計画をつくるときに、1つに決めてしまうと怖い。計画はできるだけ実態に合わせ、柔軟に対応できるように作る。例えば、原発の避難を船と決めていても、ヘリで行けるならヘリで行くと私たちは考えている。

計画が固まっていると問題が起きる。現実には、想定を超える可能性が十分にあるから。そこに制約というのか、計画づくりの課題がある。ベースは決めつつ、違うやり方も併せて議論をし、計画の中に付記しておくことが必要になる。

<IAEA 国際会議に動画出席することについて>

西日本新聞／知事の東海村の事故対応や県内で核のごみの話が進んでいることを踏まえた上での依頼だったのか。

知事／詳細は承知していない。私のほかに9地域の代表者が発表する。アメリカ、カナダ、オランダ、ハンガリー、スペイン、イギリス、ロシア、中国。韓国の慶尚北道の知事が動画出席。日本からは、私だけ。

西日本新聞／どのような思いを込めたのか。

知事／安全が最優先、福島を事故を風化させない。人材の確保や技術・知識の継承。廃炉にするにしても、技術者がいないと様々なことを安全に運用できなくなるから。オペレーションやヒューマンエラーの問題など話した。少しだけ佐賀の宣伝も。

<農業について>

西日本新聞／農業者がやりがいを持てる環境にするため、県がどう関わるべきなのか。知事／私は知事会で、地方が国に果たす役割は大きいと話している。生産現場がわからない都市部の国会議員ばかりで、食の問題を捉えたりすると、値段ばかりに着目する。エネルギー問題や憲法問題、自衛隊の話も議論しているが、都市部だけで構成される国会議員で国の成り末が決まることに危惧している。

今回は主食である米の問題。都市部と生産現場が、お互いエールを送るような国をつ

くっていかねばいけない。

我々は生産県なので、生産現場を大事にする。付加価値を上げる米づくりに、いかに苦勞しているかを市場に理解してもらうよう訴えていく。

例えば、野菜は価格が高いことばかりが報道される。米や野菜は、大変な苦勞で作っている。値段が気象条件で変化するのは当たり前。この共通認識を日本国民が持った上で議論をすれば、本質的な議論に近づいていくのではないか。

<SAGA サンライズパークについて>

佐賀新聞／SAGA サンライズパークの評価点、課題や今後の展望を教えてください。

知事／6月2日に室伏長官から長官賞をいただく。

サンライズパークは、受賞が続いている。先行して新たなスポーツシーンを佐賀からつくろうと考え、コロナの間に造ったのが良かった。さがデザインも入れ、日常、非日常というコンセプトや国スポ後を見据えて造った。そのコンセプトや思想が、評価されているのではないか。

課題は、陳腐化しないこと。常に新しい価値を生み続けるエリアにしなければならない。工夫をこらし、手を入れながら、伸ばしていく。我々自身も、SAGA サンライズパークも成長を続ける。